



授業づくりの視点

授業の導入では、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気付かせる等、興味や関心を高める工夫をしましょう。

音楽表現を高めるために音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科に応じた言語活動を位置付けましょう。

音楽の面白さに気付かせたり、表現を工夫させたりすることで、一人一人の学習の深まりにつながるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 **せんりつの重なりを感じ取ろう** [第4学年]

旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、旋律の特徴を生かした歌い方を工夫し、自分や友達の声を聴き合いながら、思いや意図をもって歌ったり、旋律の反復や重なりによる曲想とその変化を感じ取り、楽曲のよさや面白さ、美しさを聴き味わったりする題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。

思考力、判断力、表現力等

歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

学びに向かう力、人間性等

進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしようとする態度を養う。

3 題材のデザイン **全5時間**

本題材の流れ	児童の学びの姿
題材の見直しをもつ	◎ 学習で扱う曲を聴き、本題材のイメージをつかむ。 ・それぞれの曲には特徴がありそうだ。歌い方を工夫できそうだな。 ・どのように表現すればいいのかな。試しながら歌ってみよう。
「ファラドール」の旋律の特徴等を感じ取る	◎ 曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴く。 ・二つの旋律の特徴や重なり合いを動作や言葉で表現したいな。
「パレードホッパー」の表現を工夫する 本時	◎ 異なる二つの旋律の重なりを感じて歌う。 ・旋律が重なることで曲が盛り上がったな。 ・それぞれの旋律の特徴を生かしながら歌おう。
題材のまとめをする	◎ お互いの旋律を聴き合って二部合唱を工夫する。 ・友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせて曲想にふさわしい表現で二部合唱したいな。

◎本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○音や音楽と出会う場面において、児童に音楽のよさ等を感じ取らせることで、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気付くことができるようにする。

対話的な学び

○音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりできる場を設定し、言語活動を充実させることで、新たな特徴に着目できるようにする。

深い学び

○旋律に着目し、旋律の特徴や楽曲の構造と曲想との関わりについて考えさせることで、音楽の面白さを捉えることができるようにする。

自分の授業に取り入れて
みましょう。

Point

音楽表現への
興味・関心

導入では、異なる曲同士を比較させたり、音楽の特徴や構造に着目させたりする等、音楽表現への興味・関心を高める工夫をしましょう。

Point

音楽表現を
高める言語活動

表現の工夫を促すには、音楽的な特徴を共有する言語活動を設定し、実際に歌ったり、話し合ったりして曲の特徴を捉えることができるようにしましょう。

Point

面白さ・表現の
工夫の実感

終末では、まとめの合唱を聴き合う等、学習の手応えを実感する場を設けることにより、音楽の面白さや表現の工夫を捉えることができるようにしましょう。

本時のねらい

異なる旋律の重なり合いを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして歌うことができる。

本時の流れ

前時の学習を想起し、本時のめあてをつかむ

めあて

異なる二つのせんりつを重なりを感じながら歌おう

自分なりに歌い方を工夫したり、友達と歌い方について話し合ったりする

旋律の特徴を生かして歌い方を工夫する

学習内容をまとめる

まとめ

二つのせんりつを歌う時に、強弱や音色を工夫することができた

振り返りをする

児童の学びの姿

◎前時の学習について話し合い、学習の見通しをもつ。

- ・「パレードホッパー」と「ファランドール」は同じように旋律を重ねて演奏することができそうだ。
- ・重ねて歌う時、声の大きさに気を付けて歌うとよさそうだ。

◎二つの曲の旋律の特徴を生かしながら、異なる旋律が重なり合う面白さを感じて歌う。

- ・〇〇さんはアのパートのスタカートで、短く切って歌えていると思います。
- ・〇〇さんはイのパートを、なめらかに歌っていて、特徴がはっきり表せていたと思うよ。
- ・二つのパートが重なって、曲が盛り上がっているよ。
- ・アのパートが、イに比べて大きすぎるので、同じ大きさで歌おう。
- ・イのパートが、アのパートにつられてだんだん小さくなるので気を付けよう。

◎重なりを感じながらまとめとしての合唱を行う。

- ・合唱の録音を聴くとクラスの音楽表現が高まっていることが分かったよ。
- ・どのようにしたら旋律の重なりを感じて歌うことができるか分かったよ。

教師の手だて

主体的な学びの手だて 雰囲気異なる旋律の重なりについて話し合わせることで、歌唱に生かしたいという意欲を高める。

- 楽譜を提示し、視覚的にリズムの比較ができるようにする。



対話的な学びの手だて 全員で歌ってみたり教師が範唱したりして、感じ取ったことを出し合う場を設定することで、二つの曲の旋律の特徴について気付かせるようにする。

- 言語化の苦手な児童に対して、キーワードだけを挙げさせる等、ワークシートの記述の仕方を工夫する。



深い学びの手だて まとめとして録音した合唱を聴き、それを基に話し合うことで、旋律を重ねて歌うことの価値や楽しさを感じられるようにする。



授業づくりの視点

授業の導入では、音楽の特徴と背景となる文化や歴史との関連を理解させる等、興味や関心を高める工夫をしましょう。

音楽によって喚起されたイメージを共感するコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を設定しましょう。

音楽のよさや美しさを感じ取らせることで、一人一人の学習の深まりにつながるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 作曲者の思いを感じ取りながら曲を聴こう【第3学年】

「ブルタバ」の音楽を形づくっている要素（音色、速度、旋律、強弱）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受取る。また、作曲者の活躍した時代背景に関心をもち、その音楽の特徴を時代背景と関連付けて作曲者の思いを感じ取りながら鑑賞する題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりを理解する。

思考力、判断力、表現力等

鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

学びに向かう力、人間性等

主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

3 題材のデザイン 全2時間

本題材の流れ	生徒の学びの姿
「ブルタバ」の音楽から、川のどのような情景を表現しているか想像して聴く	◎ 音楽の特徴から、どのような情景を表しているのか考える。 <ul style="list-style-type: none">・「我が祖国」を聴いて情景をイメージしてみよう。・「ブルタバ」の音楽の特徴は何だろう。・想像できる情景や川の流れなどをイメージしてみよう。
時代背景から作曲者の思いを考え、曲のどの部分にどのように表現されているか感じ取りながら聴く	◎ 作曲者の思いがどのように表現されているか感じ取りながら聴く。 <ul style="list-style-type: none">・「ブラハの春音楽祭」について説明を聞いて、楽曲のよさを考えてみよう。・DVDで1曲全て視聴し、様々な情景描写や感情、曲のイメージを感じ取ってみよう。・作曲者がブルタバを表す旋律に込めた思いは何だろう。

本時

○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○音楽の特徴と背景となる文化や歴史を想起させることで、音楽表現への興味や関心をもつことができるようにする。

対話的な学び

○音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする等の言語活動を充実させることで、音楽表現を高めることができるようにする。

深い学び

○曲想や構造に着目し、音楽の背景と曲想との関わりや音楽文化について考えさせることで、曲のよさや美しさを捉えることができるようにする。

Point

鑑賞への
興味・関心

導入では、鑑賞への意欲を高めることが大切です。そのために、曲想と音楽の構造との関わり等に着目させ、作曲者の思いと表現の仕方などの鑑賞の視点をもたせましょう。

Point

鑑賞を深める
言語活動

作曲者の思いと表現の仕方を関連付けるために、音楽的な特徴を共有する言語活動を設定し、鑑賞したことについて話し合いを行いましょう。

Point

音楽のよさや
美しさの実感

終末では、学びの手応えを実感する場を設け、音楽のよさや美しさを捉えさせ、自分にとってどのような価値があるのかについて振り返ることができるようにしましょう。

作曲者の思いがどのように表現されているか感じ取りながら聴くことができる。

本時のねらい

本時の流れ

めあてをつかみ、学習の見通しをもつ

めあて

作曲者の思いがどのように表現されているか感じ取りながら聴こう

「プラハの春音楽祭」を聴き、作曲者の思いや表現の仕方について、各自の考えを基に話し合う

学習内容をまとめる

まとめ

作曲者が情景や思いを伝えるための曲想や表現の工夫を感じ取ることができた

振り返りをする

生徒の学びの姿

◎前時までの学習内容を確認し、本時のめあてをつかむ。

- ・スメタナが活躍していた当時の時代背景や心情が確認できた。



◎「プラハの春音楽祭」を聴き、作曲者の思いを感じ取る。

- ・「プラハの春音楽祭」について説明を聞いて、楽曲のよさを考えてみよう。
- ・DVDで1曲全て視聴し、様々な情景描写や感情、曲のイメージを感じ取ろう。

◎作曲者がブルタバの旋律に込めた思いについて話し合う。

- ・「ブルタバ」の旋律とイスラエル国歌の関連を考えてみよう。
- ・作曲者が「ブルタバ」の旋律に込めた思いを考えてみよう。

◎作曲者が情景や思いを伝えるための楽曲の表現の仕方についてまとめる。

- ・作曲者が情景や思いを伝えるために工夫していることを書いてみよう。

教師の手だて

主体的な学びの手だて

「我が祖国」を聴き、曲想と音楽の構造との関わりを考えた前時の学習を想起させた上で、「プラハの春音楽祭」を紹介し、作曲者の思いと表現の仕方に興味・関心をもたせる。

- 時代背景や作曲者の思いを捉えることができるように、板書やワークシートを工夫する。

対話的な学びの手だて

「プラハの春音楽祭」を聴き、楽曲の特徴をメモさせ、それを用いて時代背景や作曲者の思いについて話し合わせることで、ブルタバのよさや美しさに気付かせる。



- 「ブルタバ」の旋律とイスラエル国家の関連について考えさせることで、作曲者の思いを捉えさせる。

深い学びの手だて

作曲者が情景や思いを伝えるための表現の仕方について、友達に向けた紹介文に書き表すことで、曲のよさや美しさを捉えさせる。

- 特徴的な記述について全体に紹介し、音楽の味わいをより深める。